様式１

【瀬谷区】令和４年第１回区づくり推進横浜市会議員会議　議事録

開催日時	令和４年２月８日　　13 時 00 分　～　14 時 40 分
場　　所	瀬谷区役所５階大会議室、Ｗｅｂ
出 席 者	【座　　長】川口広議員（Ｗｅｂ） 【議　員：　２名】花上喜代志議員、久保和弘議員 【瀬谷区：２４名】植木八千代区長、村上謙介副区長、 松永朋美福祉保健センター長、 伊藤ゆかり福祉保健センター担当部長、 木村裕毅土木事務所長、ほか関係職員
議　　題	令和４年度 瀬谷区編成予算案（個性ある区づくり推進費）
発 言 の 要　　旨	○花上議員：多くの市民の期待に支えられ、昨年山中新市長が就任し、これまで議会においても様々な所信や政策的な提案なども聞いてきた。そうした中で、区役所に対しては、山中市長からどのような話があったか。 ○植木区長：まず、予算編成に当たり、各区がそれぞれ今の区の課題を市長に説明をする機会があり、子育て関係や区の魅力発信、コロナ対策等について説明を行った。その市長とのやり取りの中で、「色々と良い取り組みを行っているのであれば、他区にも広げていくことも検討してはどうか」、また「コロナの対策について引き続きしっかり進めて欲しい」という言葉を承った。市会等でも議論されているとおり、まず今はコロナ対策が第一かと思う。その上で今後ＩＣＴの活用であったり、今なかなか進まない経済活動をどう再開させていくのかというような点を、市の予算編成においても重視をしていることについて、局長会等でも話を聞いている。 ○花上議員：前回の横浜市長選の争点の一つがカジノ施設誘致の是非であり、結果的には誘致撤回ということになったが、もう一つの争点は、今話にあったコロナ対策であった。コロナ対策は山中市長に課せられた大きな市政上の課題であり、コロナの専門家として様々な取組を行って

	きたことが市民にも見えていくのではないかと思う。一方で、コロナ対策の権限・財源が、全国47都道府県の知事に与えられていることから、「横浜市政があまりよく見えない」という市民の声があったことは事実であった。山中市長になってから、市民に見える、顔の見える、姿が見える、声の聞こえる市長を目指そうと取り組んでいることについては、マスコミなども通じて市民の皆さんに届くようなメッセージがかなり伝わってきていると考えている。そうした中で、区役所に課せられている役割というのも非常に大きいのではないかと思う。コロナ対策において、第一線で区役所職員が様々な努力を行っていることは、我々議員としても見聞きしているところであり、瀬谷区のコロナに関わる様々な取組に従事している職員に対して、私のほうからも心から感謝したい。 　今コロナが第６波でまん延している状況の中で、区役所として福祉保健センターを中心に取組を行っていると思うが、今現在どのような状況にあり、区としてどのような重点的な取組を行っているのか。 〇村上副区長：　まず「陽性患者数の推移」については、瀬谷区においても横浜市全体と同様に１月の半ばから陽性患者数が増加している。「区別陽性患者数」については、瀬谷区においては１月以降に1,137人の陽性患者となっている。人口10万人あたりの陽性患者は931.6人で18区中17番目となっている。「陽性患者の年代別割合」については、横浜市では20代以下の若い世代で約48％を超えている。瀬谷区においても、同様に50％が20代以下の若い世代となっている。 　「区別ワクチン２回目接種状況」については、瀬谷区では９万5,363人が接種を終えており、85.2％の接種率である。「３回目ワクチンの接種場所」については、個別接種医療機関は市内に約1,900か所、区内では30か所である。また、集団接種会場は市内に13か所の開設を予定しており、瀬谷区から最も近い会場は希望が丘会場となる。ワクチン接種の「予約代行」については、区役所や郵便局で行われている。これに加え、瀬谷区独自の取組として、近くに郵便局などがないエリアの、中屋敷と阿久和の地域ケアプラザに相談員を派遣し、週に１度予約代行を行う。 　また、２月20日（日）公会堂で予定していた、日頃の区民活動の成果をステージイベントなどで発表する「第８回輝く！せや！フェスタ」及び２月23日（水）に予定していた「あじさいプラザ開館式典」について

	は、感染状況を踏まえ、残念ながら中止とした。なお、あじさいプラザについては、別途ご案内するが、規模を縮小して３月１日にテープカットのみを行う予定である。 〇花上議員：瀬谷区内の感染者の方々が医療機関にどのような形でかかっているのか。よく「たらい回し」と言われるような実態がマスコミで報道されるが、そのような問題は特段ないのか。 〇吉川福祉保健課長：医療機関については、まず最初に熱が出たということであれば、区内に発熱外来を設けている病院やクリニックが 10 か所程度あり、そこを受診して検査を行う。その後、検査の結果陽性となった場合は、日々健康観察し、容態が悪くなった場合には、病院に入院調整を行っている。実際の感覚としては、入院が必要な方は何とか今入院できているような状況だが、入院先がすぐ決まらなくなるなど、だんだん病床の方も厳しくなっていることを実感しているところである。 〇花上議員：消防はどうか 〇安平消防署長：先ほどの医療機関の「たらい回し」という点について、国で搬送困難の統計を取っている。救急隊が容態を見て、病院に連絡をして搬送しているが、通常であれば、１～２回の連絡で 90 パーセント以上受け入れ先の病院が決まる。 　４回以上電話をかけたり、現場単位で 30 分以上かかったものを「搬送困難」として国が統計を取っており、第５波のときはかなり多かったが、第６波においては徐々に発生し、１月からこれまでのところ 31 件ある。ただ、第５波のときと随分違うのが、酸素投与を続け酸素ボンベがなくなりそうになるような、そこまでひどい重症化事例は発生していない。ただ、２～３時間かかるような長時間の事例はまだ発生はいないが、徐々に要する時間が増えつつあることから、少し懸念しているところである。コロナの陽性者かという疑いも含め、全体としてそのような傾向になっている。 〇花上議員：医療従事者の方々の御協力なくして、コロナ対策というのはあり得ないと思うが、医師や看護師、薬剤師といったエッセンシャルワーカー、医療関係者の方々からの御協力というものは、瀬谷区の中では十分得られているのか。連携はうまくいっているのか。 〇松永福祉保健センター長：新型コロナウイルス感染症対策については、医療機関や医師会との関係が不可欠なものになっている。この冬か

	ら神奈川県で、地域療養の神奈川モデルということで、自宅療養患者のうち一定の基準以上の患者に対してオンライン診療や往診につなげる取組というものが始まっている。瀬谷区の医師会は、一早く 12 月 27 日付けで横浜市と協定を結び、これによって自宅療養患者を見守る仕組みが整っている。また、最近、新聞報道でもあるように、保健所からの電話は重症化のリスクのある方に限るようになってきているが、そうしたリスクがない方々に対しても検査した時点でアナウンスを行うよう御協力をいただくなど、瀬谷区と一緒に非常に連携して対応していただいていると感じている。 〇花上議員：瀬谷区内には自宅療養者がどの程度いるのか。 〇吉川福祉保健課長：昨日時点で 600 人少々である。 〇花上議員：自宅養養している方が容態が急変し、死に至るなどということはあってはならない話で、相当神経を使っているのではないかなと思うが、そうした懸念については今現在どうか。 〇吉川福祉保健課長：実際に今 600 人の方に対しては、毎日県で１日１回、電話やＬＩＮＥを使って健康管理を行っている。電話がつながらなかったり、ＬＩＮＥの返答がなかった方については、安否確認として区で改めて連絡を取ったり、毎日症状等を確認している。症状が悪化することへの懸念については、毎日１回行っている健康管理、安否確認とともに、県の療養サポート窓口や緊急連絡先としてのコロナ 119 番を伝えている。夜間に急に体調が悪くなった場合には、コロナ 119 番に連絡するよう伝えたり、一定以上の重症化リスクがある方については、もともと医師会にも見守りをお願いしており、自宅でお亡くなりになることがないような仕組みで対応を行っている。 〇花上議員：陽性患者の年代別の割合では、48 パーセントが 20 代以下という説明があったが、若年層で感染が非常に増えているという特徴がある。そうした中、区内の保育園や幼稚園、あるいは小中学校の学級閉鎖や休園・休校の実態について伺いたい。 〇伊藤福祉保健センター担当部長：確かに１月以降の第６波において、保育園・保育施設、学校等の休園・学級閉鎖が増えてきた。区別の数字は公表しておらずお示しできないが増加している。ただ、新聞報道にもあったとおり、学級閉鎖や休園の判断が短期間にできるように、教育委員会やこども青少年局において運用の見直しを行っている。それによ

	り、かなり短期間で再開ができるようになってきていることから、今時点では一時期よりもかなり休園・学級閉鎖は減少しているという印象は持っている。 〇花上議員：運用の見直しにより、短期間で再開できるよう配慮が行われているということだが、実際、保育園や幼稚園、小学校で学級閉鎖のようなことが起きると、子供を自宅で見なければならない。働いている母親が仕事に出られないことについての対策が、今国を挙げて求められているところだが、この点について瀬谷区内での状況を伺いたい。 〇植木区長：正直なところ、今の段階ではまだ「こうすべき」というような形のものについて、区だけではなく、横浜市としてもまだ手を打てていない状況ではある。ただ、一方で、保育園や学校で休校や学級閉鎖になって、子供の状況が確認できなくなることが問題となる。サポートが必要な子供に関しては、学級閉鎖であったり保育園の休園の情報が入った段階で、区で適切に必要なサポートを行っている状況である。 〇山梨こども家庭支援課学校連携・こども担当課長：保育園や学校において学級閉鎖等続いているが、保育施設や学校施設と上手く連携しながら迅速な対応を行っている。休業になった母親や父親に対しては国の補助金があることを保育園に案内している。実際に補助金を受けられるかどうかという点については、事業主との関係もあるが、制度に関して御案内している状況である。 〇花上議員：そうした地域の実態が区の関係機関に色々伝わってきていると思うが、地域の声に対して的確な対応を行うよう、区の関係各機関にはお願いしたい。 　我々はやはり地域で活動しているので、どこの学校の何年何組が学級閉鎖になったということまで情報が入ってくる。そういう御家庭の実態なども含めて聞いている中には、かなり深刻な具体例もある。そういう方々に対してはしっかりと手を差し延べてもらいたいという意味でも、今話を聞かせてもらった。 　次に花博のことについて伺いたい。ちょうど５年後に花博が瀬谷で開催されることから、次第に関心が高まっており、「花博を本当にやるのか」という声から具体的な様々な提案なども聞こえてくるが、肝心の機運の盛り上げをしっかり図っていかなければならないと我々も思っている。そのためには地元の瀬谷区や旭区が相当力を入れていかなければな

	らないと思うが、考えを伺いたい。 〇植木区長：園芸博の機運醸成については、まず個別の事業について、区政推進課長のほうから少し説明させていただきたい。 〇堀内区政推進課長：来年度については、機運の醸成のために、子供からお年寄りまで色々な世代の方に花に興味を持ってもらう取組を考えている。その一つとして、小学生が花に触れる機会の創出として、区内の小学校児童 1,000 人程度に対して花の育成キットを配布し、花の育成の経験を通じた機運醸成を図っていきたいと思っている。また、育てた花を植える場所を公園などに多く設置することで、あらゆる世代の区民に向けた機運醸成を図っていきたい。また、昨年も本郷公園で土の中に種を混ぜて植えるという「たねダンゴイベント」を実施したが、これを市立保育園３園にも拡充し、ワークショップを開催したい。お年寄りの方向けとしては、中屋敷地区センターで講座を開催し、花と親しんでもらえるようなイベントを考えている。 　また昨年立ち上げた国際園芸博覧会瀬谷区運営協議会については、次回２月 14 日は感染拡大の影響で書面開催となったが、各団体とも国際園芸博に関する情報共有を図り、推進してまいりたい。 〇植木区長：個々の事業に関しては、今区政推進課長から説明があったとおりだが、園芸博の成功は、「瀬谷」という地名を全国、国際的にも広めるいい機会であると考えている。瀬谷を発展させていくためには、「瀬谷」という地名があることをまず知っていただくいい機会と捉えて、瀬谷の魅力を発信していきたい。そのためには、やはり区役所だけで何かをするだけでなく、地域の方々の御協力であったり、色々な世代の方々の御協力をいただくことが必要である。区連合町内会長から「せっかく園芸博をやるのに区役所の周りに花がない」と要望があったことに関しては、土木事務所において区づくり推進費以外の予算で、公園の管理として検討を行うなど、色々なところと連携しながら取り組んでいきたいと思っている。 　現在旭区の事業と連携をするというところまでは行っていないが、これから５年あるので、徐々に色々なところで同じような事業を同じ時期に実施し、それを相鉄線沿線で広めていくといったような取組ができればと考えているというところである。 〇花上議員：「瀬谷」という地名がこれだけ語られる機会は他にない。今

	までは、横浜と言えばみなとみらいというように臨海部に光が当てられていたが、これからの横浜市は５年後の花博に向け国際イベントとしての取組が始まり、「瀬谷」という地名が全国ネットで発信されていくことになるが、このような絶好の機会はないと考える。それに呼応して、瀬谷区が積極的な姿勢を打ち出していくということが極めて大事であることから、具体的な機運の盛り上げについての提案をしっかり行い、瀬谷区全体でこれを盛り上げていくことが必要だと思う。 　推進協議会を区の連合自治会を中心に作ったようだが、推進協議会の現状について伺いたい。 ○堀内区政推進課長：昨年推進協議会を立ち上げ、今年は７月に幹事会を開催した。区連合町内会長からも推進協議会として何か取組をと意見があったため、先ほど触れた昨年 10 月に実施した「たねダンゴ」の取組や、旧上瀬谷通信施設の原っぱで、小学生と高校生が春に向けて花が咲くように種を植えるというようなイベントを行ったが、これを今後、事業にあたって推進協議会と共同で実施し協力することについて、幹事会で了承され、具体的な取り組みを始めたところである。また、今月 14 日に開催の総会において、来年度行う区の事業の一部について協力いただくような形で議題をあげる予定である。 ○花上議員：区連長の方々を中心に推進協議会が動いていただいているというのが分かったが、全世代、全組織、瀬谷区を挙げて機運の盛り上げを行わなければならない。区長から区役所の周りに花がないという話があったが、これも瀬谷区全体で花いっぱい運動をやらなければいけないと思っている。各家庭から協力を得ることも大事であるし、小学校、中学校や公共施設などでもそうした花いっぱい運動に参加してもらい、「瀬谷区へ行けば花があちこちで見られる」「花のまち瀬谷区だね」というような言葉が出るぐらいに積極的に取り組んでいく必要がある。春夏秋冬、それぞれの花が瀬谷に行くと見られるようにするというのは非常に大事なことだと思う。５年間あるので、季節に応じて、種まきなどを行い、それで「瀬谷に行ったら、花があちこちに非常にたくさん見られる」というような、そうした花いっぱい運動を区を挙げてやっているというようなことが見えるのが大事である。 　花の種を植えることにそれほど経費はかからないと思う。公園などの目立つ場所、公共的な施設に積極的に種をまき、花を植えていく取組は

	極めて実現の可能性が高い政策ではないかと思うがどうか。 〇植木区長：ご指摘のとおり、色々なところに花があふれるようにしたいと考えている。公園などに既に植わっている花を大事にするということももちろん必要であることから、土木事務所とも協調しながら取り組んでまいりたい。 〇花上議員：相鉄線沿線にある端切れ地に花を植えて、通勤通学客が相鉄線の窓の外を見ると四季折々に花があちこち咲いていることを感じてもらえるような、花いっぱい運動をやったらどうかという提案を以前議会で行ったことがある。相鉄線は花博来場者が利用する中心的な駅になることから、相模鉄道にも協力を仰いでいくということも必要ではないか。相鉄と話し合う機会というのはあるのか。 〇堀内区政推進課長：瀬谷のオープンガーデン事業では、瀬谷駅、三ツ境駅で受付、案内所を設置するなど協力をいただいている。また、相模鉄道は推進協議会のメンバーにも加わっており、協力関係を更に強めて色々な取組ができればと考えている。 〇花上議員：あと５年といってもあっという間の５年だと思う。都市整備局が中心になり、花博成功に向けた取組、様々な整備なども今行っているが、やはり地元の瀬谷区も呼応して、横浜市を挙げて取り組むべきビッグイベントであるので、まずは率先して瀬谷区が花博の成功に向けて動いていることが見えるような目に見えた取組をしてもらえるよう要望しておきたい。 〇久保議員：まず初めに、医療従事者の方々や区職員のコロナ対応については感謝申し上げたいと思っている。優先度の判断にあたっては、適切にトリアージを行い、混乱がないようにしていただきたい。感染された方から相談があり、実際に電話がつながりにくいようだが、しっかりトリアージを行い、優先度に従って対応することに何よりもしっかりと心を傾け、寄り添うことをお願いしておきたい。 「災害等対策事業」で「防災スピーカー運用及び維持管理」と記載があるが、横浜市は局の方でも、情報連絡手段強化ための事業として今年度で予定の設置を終えると聞いている。また、４年度においては、町内に聞こえる範囲、聞こえ方の検証を行うと聞いている。 その上で、実は昨年度、境川の水が浸水したというような相談を受けたが、その時に地域の方からは、市民の皆様は瀬谷区独自か御存じない

	かも知れないが、瀬谷区独自で設置している防災スピーカーが機能してないのではないか、という相談が複数あった。その中の一つは、反対の大和市側では消防車が来ていたことを目にされてのものだったが、色々な考えを皆さんお持ちのようである。そこで、区独自のスピーカーと市のスピーカーが連動しなければならないと、公明党として決算特別委員会において質疑を行い、総務局からは区としっかり連携を図っていくという答弁があった。 　現状、運用の方法自体に問題や課題があるのか。また、区民、地域の方が運用の内容を知らないという場合もあることから、しっかり対応してもらいたいと考えている。事業の状況について確認したい。 〇鈴木総務課長：瀬谷区で設置している防災スピーカーは４機あるが、これらは市の設置しているスピーカーとはシステム上全く連動しておらず、区独自で運用しているものである。こちらのスピーカーについては、境川流域で避難情報が発令された場合に、防災スピーカーを鳴らすことについて、地域の方と共有しながら運用している。 　防災スピーカーについては、各自治体、色々な運用を行っており、様々な情報を流しているところもあるが、瀬谷区では色々な情報を流しすぎると、本当に避難しなければいけない情報なのかどうか判断が難しいということで、この防災スピーカーが鳴っていれば避難する時であることが伝わるように、避難情報について放送するというような形で運用を行っている。そのため、個別の水位が少し増してきているというような情報については、現状のところお知らせしていないところである。 　一方で、避難情報についてであるが、災害の情報については色々な発信手段があり、水位が上がった場合に事前に登録しておけばメールで個別に情報を伝達してくれるというものもあるので、色々な情報を個別に活用していただくというのも一つの方法なのかと考えている。 　先ほどあった市会での答弁についても、総務局危機管理室からも相談を受けており、具体的にどのような連携ができるのかという点については、これから危機管理室とも相談しながらというところになるかと思うが、現在地域の方々の理解を得ながら運用している部分について変更することが可能か、変更した場合にどのようなメリット、デメリットがあるのかというところも踏まえ、意見を聞きながら今後検討してまいりたい。

	○久保議員：実際は様々課題があるのだと思う。現状は風水害が多いが、大雨による被害も増えてきている。 　ただ、市民の目線からは、やはりどのような運用の在り方なのか、どのような時にスピーカーが鳴るように運用されるのかということが定義付けされてないといけないと思う。先ほど話があったように、今後色々検討を行っていく中で、よりよい運用になるよう期待している。 　「瀬谷区の魅力発信・名所づくり事業」の国際園芸博覧会開催に向けた機運醸成については、先ほど花上議員からあった質問と同じ内容となるため割愛する。 　「定住促進に向けた魅力ＰＲ事業」について、これは継続事業であると思うが、様々な民間の不動産ポータルサイトは現状どのような状況になっているか、また、次年度に向けた拡充や今までの計画において何か頑張っていることがあれば教えてもらいたい。 ○堀内区政推進課長：不動産情報のポータルサイトについては、今年度２月末までの期間でサイト内に区のＰＲページを掲載し、インターネット広告を用いた発信を行っている。アクセス者数のうち１パーセント程度の方がＰＲページを閲覧している。これは件数として非常に少ないということではなく、サイトの閲覧という中では標準的な数である。 　瀬谷区に転入していただきたい 20 代から 40 代の子育て世代をターゲットとし、来年度も同様に実施したい。また、来年度は旭区とも連携をし、ベビー用品の店や全国の産婦人科等に置かれている妊産婦向けの出産情報誌、出産準備情報誌に瀬谷区の紹介記事を掲載し、定住促進に向けたＰＲを行いたいと考えている。 ○久保議員：2023 年の３月には相鉄・東急直通線の開業が予定され、既に開業している相鉄・ＪＲ直通線と合わせて、郊外部である瀬谷区にとって非常に魅力があることではないかと思う。コロナ禍で乗客はまだ戻っていないようだが、交通インフラの充実は非常に大事なことである。 　埼玉や東京方面まで非常に広い範囲で繋がることから、新たな活性化に資する取組として定住促進に期待したい。 　昨日、２月１日現在の横浜市人口ニュースが公表されたが、瀬谷区は 12 万 1,984 人であった。横浜市の人口は減少に転じており、市全体では対前年同月比で△5,369 人、瀬谷区では△414 人であった。そういった意味では、瀬谷区も人口減少を免れ得ないかも知れないが、定住促進に向

	けた施策を是非拡充してもらいたい。 　「まちづくり推進事業」の瀬谷駅周辺の活性化に向けた検討において、具体的に「瀬谷駅周辺」と書いてあるが、区名である「瀬谷」という名前を冠し、また花博会場の最寄り駅となる瀬谷駅において、どのような活性化策を検討するのか。 ○村上副区長：仔細について今後詰めていくところであるが、園芸博では多くの来街者を迎える玄関口としての瀬谷駅となることから、瀬谷駅周辺の活性化に向け、駅周辺地域の皆様の意見も伺いながら、区では主にソフト面等からの活性化に向けた検討を進めてまいりたい。 ○久保議員：以前にも申し上げたが、都市整備局と話し、現在瀬谷駅のホームドアの設置が進められている。実は令和４年度までに相鉄線の全駅にホームドアを設置する予定であったが、令和９年度に遅れる見込みであると説明を受けている。あくまで民間事業者で設置してもらうもので、横浜市の補助が入らない事業ではあるが、花博開催に向けてホームドアの設置など、ハード、ソフト両方での対応の実施についてお願いしたい。 　基礎データ集にある「瀬谷区に関する要望の内容ベスト３」では、今まで「交通・道路」についての要望がずっと１位であったが、令和２年度は「保健・衛生・医療」、「都市整備・開発と住宅」となった。その要望は、コロナ禍を受けて増えたということか。内容について伺いたい。 ○堀内区政推進課長：コロナの感染対策等が増加につながっているものである。 ○久保議員：また、ふれあい収集について記載があるが、我々も議会でふれあい収集については推進しているところである。 　令和２年度のデータによれば、実施世帯、新規加入世帯とも大きく増えているようである。高齢化社会になって高齢者が多い、あるいは様々困難を抱える方、障害をお持ちの方が多いなど、利用者の実態や増加の原因について教えてもらいたい。 ○澤野資源化推進担当課長：ふれあい収集の利用者のほとんどが高齢者である。ただ、やはり高齢者が多いことから、例えば入院をしてしまうのでふれあい収集がなくなるといったケースも非常に多くなっているというのが今の瀬谷区の現状である。 ○久保議員：引き続き様々な施策の推進をよろしくお願いしたい。

	○花上議員：区政推進課の新規事業で「ムクドリ対策」があるが、瀬谷駅の駅前のケヤキに密集しているムクドリの対策か。 ○木村土木事務所長：他にもあるが一番多いのは瀬谷駅北口のすぐ目の前のケヤキである。毎年、緑が生い茂る時期になると非常に増えてくる。これまでも剪定は行っていたが、なかなかいつも剪定するという訳にもいかないため、試行的な意味もあるが、鷹等の猛禽類を使ってムクドリを追い払うことを考えている。 ○花上議員：以前ＮＨＫのニュースか何かで、鷹を使ってムクドリを追い払っているところを取り上げているのを見たことがある。確かに効果があるというのはテレビで分かったが、鷹が来たから逃げるというのは一時的なことではないのか。いつも瀬谷駅のその場所を通るが、ムクドリが一斉に木に止まって鳴いている音は尋常じゃないぐらいにやかましい。一時的に鷹で追い払って、また１年２年たったら戻ってきてしまうということであるならば、無駄な話であると思う。たしか以前、枝を剪定して、それで本当にいなくなった。その方が効果があるのではないかと思うが、それについて見通しはどうか。 ○植木区長：ご指摘のとおり、単発でやると多分すぐ戻ってきてしまうと思う。ただ、今回は年に数回実施し、もうここには鷹やフクロウがいるということを鳥に記憶させたいというのが先ずある。木を剪定すると来なくなるが、日陰が必要なときに何も日陰がないといった状況にもなる。あともう一つは瀬谷駅でやることで、マスコミ等が瀬谷駅に注目してくれるのではないかという思いもあり、今回試行的にこの事業を実施したいといった状況である。 ○花上議員：効果があり、また戻ってきてしまうというようなことがなければいいと思うが、それは今までの実証実験をやったところの成果というのはもう検証しているのか。 ○木村土木事務所長：実は戸塚駅の駅前でかつて実施したことがあるが、継続的にということではなかったため、結局駅前からはいなくなったが、近くの柏尾川の方に移ったということがあった。結果的にそれはその後継続していないようである。しかし、今回瀬谷駅での実施においては鳥に記憶させることを目的としており、そのために単発ではなく年に８回実施を予定しているほか、ある程度継続的にこれからも実施する必要があると考えている。

	○花上議員：いずれにしろ１回きりで効果がなかったのではないか、では困るので、しっかり対応するようにお願いしたい。 ○川口議員：質問に入る前に、日頃よりコロナ対策では非常に汗をかいてもらい本当に感謝申し上げたい。また、土木事務所長には、本郷のカーブミラーの設置において迅速な対応を図ってもらい、この場を借りてお礼を申し上げたい。 　私はデジタル推進の特別委員会に所属し、この１年間、リモートを推進するという立場を取ってきており、今も座長としてリモートを活用し、区づくり推進市会議員会議に出席させていただいている。このリモートを使った率直な意見について、改めてデジタル特別委員会で反映させていきたいと思うがいかがか。 ○植木区長：実際に説明をする時にそれぞれの資料がちゃんと手元で見られているかどうかが分からないのは、非常に不安を感じるところである。ただ、今回カメラ等も変え、それぞれ説明者が誰であるかというのをはっきり分かるようにしながら説明ができているので、この場にいらっしゃる議員の方々は直接お分かりになるが、リモートで参加いただいている川口議員にも、どこの部署からどのような説明があったのかというのが分かりやすい形になったのではないかと考えている。 　また、この会議を開くに当たっても、Ｗｅｂの状態が安定するかどうかというのは非常に不安を感じたところではある。今のところ無事に進んではいるが、やはりリモートで実施する場合は、万が一Ｗｅｂが不調になったときにどう対応するのかということで、携帯電話でも連絡が付くようなお願いを事前にする形になっているので、参加される方が負担にならないかという心配はある。 　あと地域の方で、特に御高齢の方はＷｅｂ会議等には慣れていないケースもあり、やはり全員がすぐにリモートに対応するのは正直難しいところがあると考える。もうスマホが物心ついた時からあるといった方たちがその年代になってきた時には、普通にできるようになるではないかと思っているが、そういった形での地域での啓発等もやはり必要なのかなというのが、今この形で会議をさせていただいたところの率直な意見である。 ○川口議員：途中でＷｅｂが途切れてしまうと、せっかくの大事な会議も台なしになってしまう可能性があるというのは、このリモートによる

	オンライン会議の難しいところである。特別委員会の中でもそういった発言をさせていただきたい。 　今日の会議の中で２列目に座っている方が座ったままではなく立って説明するなど、その場その場で工夫をしていただいていることは非常に有り難い。ただ、カメラのセンサー性能が良いせいか、少しの物音でも敏感に反応してクルクル回るので、なかなか焦点がしぼりづらいというのが率直な感想である。難しいかも知れないが、センサーの設定等で解消できるのであれば、と思ったところである。 〇植木区長：このカメラは音と動きに反応する形になっているが、スマホを使ってコントロールすることもでき、発言者がある程度決まっているものに関してはそこで固定させることも可能である。 〇川口議員：またやりながら工夫を重ねていくことで、この会議に適したリモートの形というのが見つかるのではないかと思う。私見ではあるが、このコロナ禍においてリモート、オンライン会議というのが普及、進んでいるが、いずれコロナが終息した時にリモート会議というのはどういった活用の場があるのかというと、一種の働き方改革に繋がるのではないかと思っている。久保議員からも発言があったが、「瀬谷の魅力発信・名所づくり事業」の定住促進に向けた取り組みにおいて、やはりこの自然が豊かで、しかも、都心に近い瀬谷というまちは、多くの都会で働く方々がリモートを活用しながら住んでいただくまちに非常に適していると思う。そういったところで、区の中でもリモート会議を使えるところでしっかり活用することによって、そういった魅力、新たな魅力というのを区からも発信できるのではないか。現状、区役所の中で市民・区民に向けて、あるいは、区役所の職員の中でリモート、オンライン会議の活用というのは進んでいるのか。 〇植木区長：実際に特にオミクロンが始まってしまってから、大人数で集まることは危険だという認識もある。そのため、区の定例の会議に関しても、広い会議室が確保できない場合には、それぞれ自席で参加ができるように進めている。ただ、やはりハード面がまだ追い付いていないところがあるが、来年度デジタル統括本部において区役所のデジタル化に関する予算を計上しており、施設整備面での改善が徐々に進んでいけば、より使いやすい状況にはなっていくのではないかと考えている。 〇川口議員：デジタル統括本部も現状 20 名のところ、来年度は 100 名近

	くの人員体制になるという話がある。各区役所に職員を派遣して問題点をまず聞くという姿勢を今まで以上に持っていくという話も聞いている。デジタル統括本部ともしっかりとコミュニケーションを取り合いながら、リモートという形も改めて会議の一つの形として課題等も見出だしていってもらいたい。 「瀬谷の魅力発信・名所づくり事業」の「瀬谷の魅力オープンガーデン事業」はもう長年継続している事業であるが、「オンラインでも楽しめるよう」という記載がある。ここでやはり気になるのが防犯の観点である。各家庭の庭をオンラインで、随時映してしまうことについて、防犯の観点から危惧するところであるが、所見や対策がもし何かあれば教えてもらいたい。 ○堀内区政推進課長：コロナ禍の観点から、「密にならない」という視点で考えているが、ご指摘のとおりプライバシーの問題もあるため、オンラインに御賛同いただける方に限定したい。どのようにホームページ上で公開するかなど、詳細は検討中であるため、ご指摘いただいた点を踏まえてまいりたい。 ○川口議員：あくまで「参加したい」という御意思があった上であることを確認できたので、その流れは遵守してもらいたい。 「アジサイ周辺の樹木剪定・伐採事業」について、アジサイが区の花として非常に重要であることは認識しているが、花博を開催する街として、アジサイのために周辺の樹木を伐採することについて何か違和感を感じてしまう。実際、何の樹木が邪魔になってきてしまうのか。 ○井深土木事務所副所長： 今回考えている場所は、二ツ橋の水辺、二ツ橋公園、楽老南公園である。二ツ橋水辺に関しては、マテバシイという樹木が高く伸びて日を遮っているため、これを剪定する。二ツ橋公園については、マテバシイやケヤキの剪定を行う。伐採というよりも剪定が中心になるため、バッサリ切ってしまうということにはならないと考える。楽老南公園はクスノキが２本、ケヤキが６本ぐらいあるため、現地に合わせて、日差しが入るように剪定を行いたい。 ○川口議員：花博を開催する街として、バンバン木を切ることはおかしいという直感を持っていたので、伐採ではなく剪定が中心ということで安心した。 ムクドリ対策については、動物愛護団体の方からの苦情はないのか。

	戸塚で先行事例があるとのことだが、その際に動物愛護団体の方から「ムクドリがかわいそうだ」といった声はなかったか。 〇木村土木事務所長：戸塚区からは実施当時のことをいろいろ聞いているが、そのような話はなかった。あくまでもムクドリを追い払うことが目的であり、直接危害を加えることがないよう、予め有害鳥獣駆除申請を行うこととしている。 〇川口議員：危害を加えるということであれば、かなり残酷であると思っていたため、安堵した。年間で何回か繰り返すことで効果があるということでよいか。 〇木村土木事務所長：継続することで効果はあると思っている。実際に実施してみないとどの程度効果があるか分からない部分はあるが、記憶に刷り込まれるようある程度継続的に実施する必要があると考えている。 〇川口議員：戸塚の事例も話にあったが、逃げていったムクドリが瀬谷区内でまた新たな問題を起こす可能性は高いのか。それとも、そのようなことは想定しなくても大丈夫か。 〇木村土木事務所長：ムクドリが集まりやすい民家の近くにある大きな木という条件となると、戸塚のように集中して移るところはなく、分散すると考えている。 〇川口議員：「区民活動支援事業」の「読書との出会い応援事業」について、読書習慣の定着に向けて「様々な形態で楽しむ」と記載があるが、「様々な形態」とはどういったものか。 〇小泉読書活動推進担当課長：小中学生を対象とした読書スタンプラリー等の活動を年間通じ実施しており、参加者からは好評をいただいている。それ以外にも各学校と連携し、会議等も行いながら読書活動の推進に努めている。 〇川口議員：コロナの影響で図書館の運営で何か困ったこと、あるいは課題点はあるか。特にこの第６波で感じることがあれば伺いたい。 〇小泉読書活動推進担当課長：第６波が始まってから図書館の職員にも濃厚接触者が発生し、突然出勤できなくなることがあった。図書館はどうしてもカウンター業務が伴うため、他の職員や自身もカウンターに立つことが度々あったが、これまでのところ運営に支障をきたすような状況にはない。

備　　考	